

# 斜面の崩壊が約270箇所が発生

## ～台風11号通過後の航空写真による判読状況～

平成26年8月8日から10日にかけて六甲山地に接近した台風11号の通過後に、近畿地方整備局のヘリコプター「きんき号」による緊急調査と並行し、航空写真（垂直写真）の撮影と、撮影した写真上での斜面崩壊箇所を調査（判読）し、土石流をくい止めた砂防堰堤を確認していますが、斜面の崩壊状況をとりとまとめました。

### 1. 航空写真による斜面崩壊箇所の判読状況

航空写真による調査では、台風11号の豪雨により、小規模なものも含めて約270箇所の斜面崩壊を確認しました。（別紙参照※）

今回の結果は、関係機関に情報提供を行っています。なお、直ちに避難が急迫した崩壊はないと思われませんが、降雨に関する情報や市役所から発表される避難に関する情報に十分注意して下さい。

※本資料は、平成26年10月8日時点で作成しております。今後、数値等が変わる場合があります。

### 2. 調査概要

台風11号が通過した翌11日にきんき号による緊急調査とともに、航空機を用いた垂直写真撮影に着手しました。

今回撮影した垂直写真と既存の垂直写真（平成25年9月撮影）を目視判読により比較し、斜面の崩壊箇所の調査を行いました。

撮影方法 : 航空機（固定翼）により、高度1200mから撮影

撮影範囲 : 六甲砂防事務所が担当する砂防事業実施範囲※及び周辺を含め約160km<sup>2</sup>を撮影（平成26年8月20日撮影）

抽出状況 : 目視判読が可能な平面投影面積で20m<sup>2</sup>程度より大きな面積の崩壊箇所を調査

留意事項 : 撮影時の太陽光線の状況による色合いの違い、画像解像度、落葉前の撮影のため樹林内の崩壊や垂直に近い急峻な斜面で発生している崩壊箇所がある可能性があります。

※「六甲砂防事務所の砂防事業実施範囲」は、以下の23水系（流域）を担当しています。

堺川、敦盛塚川、三の谷川、二の谷川、一の谷川、千森川、妙法寺川、新湊川、宇治川、新生田川、西郷川、都賀川、石屋川、住吉川、天上川、高橋川、芦屋川、宮川、夙川、山田川、有野川、有馬川、船坂川

### 3. 調査結果

#### (1) 調査状況

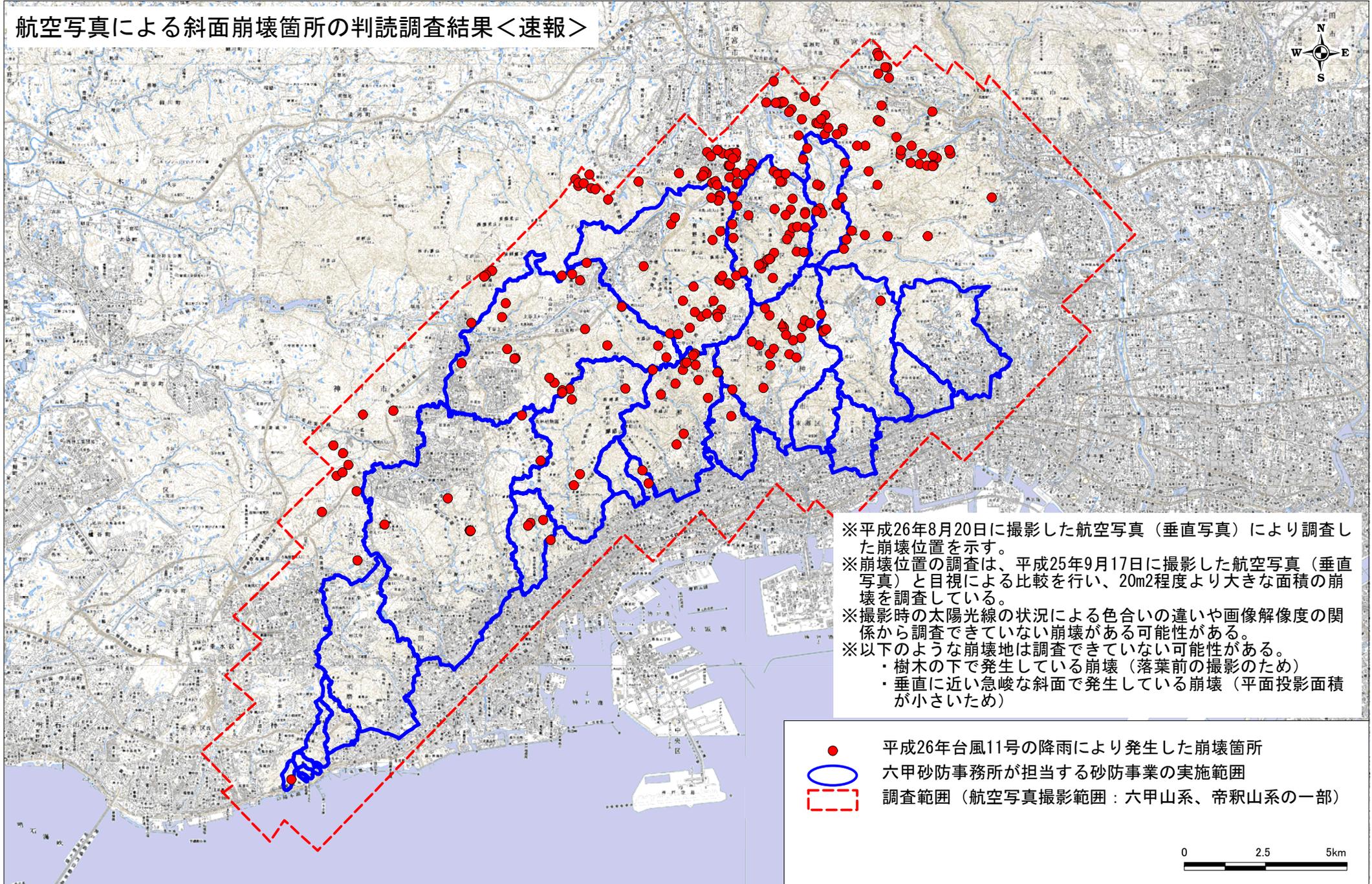
写真判読により崩壊が発生していると判断した箇所は、小規模な面積の箇所から1000m<sup>2</sup>を超える箇所まで様々ですが、撮影した写真の範囲内で約270箇所の斜面崩壊を確認しました。その内、1000m<sup>2</sup>を超える崩壊箇所は42箇所でした（六甲砂防事務所ホームページに掲載している「平成26年台風11号による土砂災害について」（8月27日掲載）の21箇所を含む）。

#### (2) 調査結果を踏まえた対応

六甲砂防事務所事業範囲における1000m<sup>2</sup>以上の崩壊箇所（25箇所）については、年内を目途に調査を終了し、対策が必要と認められる箇所については、随時、関係機関等と協議を進めていく予定です。

※今回の調査（判読）結果は、航空写真で確認出来た範囲での情報です。

### 航空写真による斜面崩壊箇所の判読調査結果<速報>



この地図は、国土地理院発行の数値地図50000（地図画像）『須磨』、『大阪西南部』、『神戸』、『大阪西北部』、『三田』を使用したものである。